



読書のまち・かわさき

# 読書のまち・かわさき通信

## NO54

2011. 12. 19  
発行

読書のまち・かわさき事業推進委員会 会長  
川崎市教育委員会 学校教育部 指導課長

## “『ねずみくんシリーズ』のなかえよしをさんと 小学生との交流会が実現”

～「第9回 かわさき読書の日のつどい」～

### “100%嬉しい！！”

11月6日の午後、『ねずみくんが見つめてきた大切なこと』というテーマで、「読書の日のつどい」の第Ⅱ部が行われました。前半は、児童6人となかえ先生との交流会を行いました。後半は、なかえせんせいによる講演会が続きました。



「100%嬉しい」という言葉は、前半の交流会の中で、なかえせんせいと上野紀子先生を目の前にして、「本物の先生に出逢えた感想は？」と訊かれた時に、鷺沼小1年生の**岡田光平**さんが放った勢いのある言葉です。岡田光平さんは『ねずみくんのお母さん』という自作の物語も披露しました。また、鷺沼小1年生**佐藤皇海**さんは、ねずみくんに触発され作曲した『ねみちゃん遊ぼう』をキーボードで演奏し、会場を沸かせました。

交流会の先頭バッターをつとめた鷺沼小5年生**小林真夕**さんや最後を引き締めた南百合丘小6年生**日比萌菜美**さんらは、ねずみくんは、なかえ先生の中だけではなく、絵本を読んでいる自分自身の中にも、絵本を読んでいるすべての人の中にもいることを伝えました。また、絵本の絵が生み出す「言葉の力」や想像させる力についても言及し、改めて絵本を読み直す楽しさや再読の奥深さについても気づくことができました。

「絵を読む」という点では、御幸小1年生**大野風嬉**さんの眼差しも会場を唸らせました。「ぞうさんの動きがおもしろかった」と話しているように、『ねずみくんのチョコッキ』の終盤で、ぞうさんが着たために伸びてしまったチョコッキの絵をよく見て想像し、楽しみながら絵本と向き合ったよさが光りました。大人が気づかない絵への眼差しにハッとさせられました。南生田小2年**塚崎藍子**さんは、自作の絵本を持参し紹介したり、なかえ先生への手紙を綴ってきて舞台上で渡したりする等、自主的で創造的な活動が光っていました。また、将来は、なかえ先生のような絵本作家になりたいという自分の夢の一端も披露しながら、会場をやさしい笑顔であふれさせました。



後半は、なかえ先生の講演でした。『星の王子様』や金子みすずさんの童謡詩を引用しながら、時代を超えて大切にしなければならない想像力について言及しました。また、金子みすずさんの童謡詩にふれて、詩のもつ力に向き合う子どもたちの感想文を紹介しました。その中で、子どものもつ感受力の可能性とそれを支える大人の使命についてもふれていました。会場の多くの大人たちにとって大きな「宿題」をいただきました。

金子みすずさん  
の童謡詩から

雨のあと

日かげの葉っぱは  
泣きむしだ、  
ほろりほろりと  
泣いている。

日向の葉っぱは  
笑い出す、  
なみだの痕が  
もう乾く。

日かげの葉っぱの  
泣きむしに、  
ただれか、ハンカチ  
貸してやれ。



『フロンターレと本を読もう』

大盛況！！“ブックランド等々力”

11月3日文化の日の等々力競技場では、大宮アルディージャとの試合が開催されました。そして、試合前には、3年目を迎えた「ブックランド等々力」も開店し、たくさんの市民の方に関心をもって足をとめていただけました。今年度は、「しおり作り体験コーナー」を追加し、例年の「選手おススメ本販売コーナー」「紙芝居コーナー」「リサイクル本提供コーナー」と共に、親子連れの方々にも集まっていただき大盛況のまま閉店することができました。「大好きなサッカー選手の読んでいる本が、自分の読書との出会いや始まりになるのも素敵だと思います」というひとりのサポーターの方の声印象的な午後のひとときでした。

